



左側が英仏のビデオテックスによる画像。右はテリドンの画像。図形描写能力の差は歴然だ。

場合は、図形や文字がちょうど鉛筆で描くように描けるので、直線は直線として、円は円として写り、また写真も細部まで

「私たちは競合中のすべてのテレテキスト技術を検討した末、編集に最高の融通性のきくテリドンが最も好ましいという結論に達しました。テリドンの図形制作能力は、現段階における他のテレテキスト・システムの能力よりすぐれています」

タイム社のビデオ・グループ開発部  
部長 サーン・マッカーシー

きちんと再生できるようになっている。しかも、テリドンは他のシステムと比

べて情報の貯蔵および伝達容量がはるかに少なくすむため、効率がきわめて高い。単純な画像だと、記憶容量は平均五百バイト（四千ビット）以下ですむ。

## 複数のデータベースと接続も

現在のところ、テリドン・システムで伝達されるすべての情報はセントラル・コンピュータに貯蔵された一つのデータ・ベースの中に入っている。しかし、今後は、それぞれのコンピュータに貯蔵されたいくつかのデータ・ベースがおかれるようになり、テリドンのユーザーはすべてのデータ・ベースを利用できるようにになるだろう。データ・ベースのひとつが組み込まれるセントラル・コンピュータは、ユーザーの端末器と遠く離れたコンピュータに入っている第三者のデータ・ベース（一個または複数）との間にユーザーの注文を伝えたり、情報を検索したりするスイッチの役割も果たす。このようにして、ユーザーはいくつもデータ・ベースを利用することが可能になる。

解像の度合いおよび幅についても、テリドンにまさるシステムはない。テリドンのPDI II 図形描写指令（コンピュータ

ター信号）が図像化できる対象は、理論的には無限といってもよい。問題があるとすれば、ディスプレイ技術やデータ・ベースの中の図形要素（点や線）がこの能力をフルに利用できるかどうかにある。テリドンのPDI IIは、現在、TV受像機、文書作製自動化装置（ワード・プロセッサ）、高解像図形端末器などのディスプレイ能力がぎりぎりまで利用できる。ディスプレイ能力が高まれば、データ・ベースに手を加えなくても、より上質の画像が得られるはずである。

逆に、同じPDI II、同じデータ・ベースを使って、きわめて少ない図形要素しかディスプレイできないTV受像機に合

うような解像度の低い図像もだせる。解像力の高低を問わず、どんなディスプレイ・モニターにも使用できるわけである。電子出版業界では、いま、テリドンのディスプレイ・ページを作るのに七つの異なった色を用いている。もし必要であれば、もっと沢山の色合いが出せるようになっていく。あとは端末器のデコーダ（転換器）の設計次第だ。将来は色彩濃淡ともほとんど無限に出せるようになるはずである。しかもTV受像機のカラ―ディスプレイ能力に順応するようにできているため、カラーで伝達された信号を白黒テレビに映すことも可能だ。また左から右へと順々に画像を描く必

